川崎重工業株式会社

Company Profile

Kawasaki Heavy Industries, Ltd.

www.khi.co.jp

Cat.No.1A0318 Oct.'21 Ⓜ

INDEX

2 社長メッセージ
3 グループミッション
4 グループビジョン
5 沿革
7 Kawasaki Hydrogen Road
9 航空宇宙システム
11 車両（川崎車両株式会社）
13 エネルギー・ソリューション
15 船舶海洋
17 精密機械
19 ロボット
21 モーターサイクル&エンジン（カワサキモータース株式会社）
23 研究開発
25 国内生産拠点・営業拠点
27 海外生産拠点
29 社会貢献
30 Information

社会のニーズを的確に捉え、スピーディーに適応する企業グループへ

代表取締役社長執行役員
橋本 康彦

新興国における急速な産業の発展や人口増加などに伴う環境悪化リスクの懸念、先進国における高齢化の進展に伴う労働人口の減少に加え、航空・物流網の発達やインターネットの普及によりグローバル化が進む中で、新型コロナウイルスによるパンデミックの発生により、いま世界は激動の変革期を迎えています。そして、わたしたちのライフスタイルやビジネススタイルなど、従来の価値をあらためて問い直さなければいけない機会に直面しています。

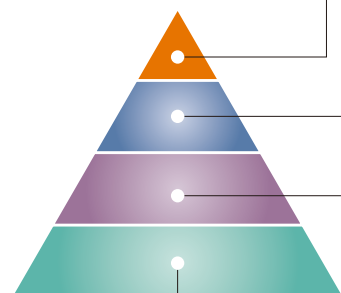
当社グループは1896年の創立以来、120年以上にわたり、陸・海・空の幅広い事業分野で、ものづくりを通じて高い技術・知見を培ってきました。それぞれの時代において、最先端の技術をベースにさまざまな価値を提供してきましたが、常に世界の人々の多様な要望に応える製品・サービスを時代の変化に合わせて提供し、お客様と社会の可能性を切り拓く力になることが、当社グループの掲げるミッション「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する"Global Kawasaki"」の実現に繋がるものと確信しています。

今後も、新たな時代の社会課題を的確に捉え、お客様の「期待と信頼」に応えて課題を解決していくためには、世の中の変化にタイムリーに応え、新たな付加価値を届けることが必要と考えています。そこで、2030年に目指すべき企業像として、「つぎの社会へ、信頼のこたえを」というビジョンを制定しました。この言葉には、「刻々と変わる社会に、革新的なソリューションをタイムリーに提供し、希望ある未来をつくっていく」、「さまざまな枠を超えてスピーディーに行動・挑戦することで、自らの可能性を拡げ成長し続けていく」という意味が込められています。

常にお客様とともに迅速にソリューションを考え、行動していくことで、自分たちが社会の「カワる、サキへ。」を体現するとともに、これまで以上にグローバル展開を進めて事業の成長を図ることで、コンプライアンスや企業の社会的責任（CSR）を果たしながら、世界中の人々から信頼される企業を目指してまいります。引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Powering your potential

川崎重工グループは、
航空宇宙システム、エネルギー・環境プラント、
精密機械・ロボット、交通・輸送という
多彩な領域で高度な技術力を発揮するとともに、
領域を超えたシナジーの追求により、
新たな価値を創造。地球環境との調和を図りながら、
より豊かで美しい未来社会の実現を目指します。

ミッションステートメントの構成

グループミッション

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する
“Global Kawasaki”

川崎重工グループは、広汎な領域における高度な総合技術力によって、地球環境との調和を図りながら、豊かで美しい未来社会の形成に向けて、新たな価値を創造します。

カワサキバリュー

- 多様なお客様の要望にこたえる
- テクノロジーの頂点を目指す
- 独自性・革新性を追求する

グループ経営原則

① 高機能・高品質で安全な製品・サービスを世界の人々に提供する。
② 社会的責任を認識し、地球・社会・地域・人々と共生する。
③ 労使の信頼を企業文化とし、グローバルに“人財”を育成・活用する。
④ “選択と集中”、“質主量従”、“リスクマネジメント”を指針とし企業価値向上を図る。

グループ行動指針

① グローバルで長期的な視点に立つ。
② 困難な課題に挑戦する。
③ 目標の実現に向け、最善を尽くす。
④ 社会と人々から信頼される企業人となる。
⑤ 自主独立のプロフェッショナルとなる。
⑥ 誇りと喜びを共有する、カワサキのよきメンバーとなる。

グループビジョン 2030

つぎの社会へ、信頼のこたえを
Trustworthy Solutions for the Future

川崎重工は、刻々と変わる社会に、革新的なソリューションをタイムリーに提供し、
希望ある未来をつくっていきます。
そして、さまざまな枠を超えてスピーディに行動・挑戦することで、
自らの可能性を拡げ成長し続けていきます。

Frontier	New Values	Cross Over
挑戦のDNAでフロンティアを切り拓く	世界が直面する課題に革新のこたえを	枠を超え、成長し続ける創造的な挑戦者に

【 Kawasakiが注力する3つのフィールド 】

安全安心リモート社会

医療・ヘルスケア、災害対応、
新しい働き方・くらし方の提案

手術支援ロボット「hinotori™」（メディカロイド）

自動PCR検査ロボットシステム

近未来モビリティ

新しいモビリティによる
人とモノの移動を変える

無人コンパウンド・ヘリコプター「K-RACER」

配送ロボット

エネルギー・環境ソリューション

水素をはじめとする
脱炭素化への取り組み

世界初の液化水素運搬船「すいそ ふろんてぃあ」

国内最大の液化水素貯蔵タンク（神戸空港島）

受け継がれてきた技術力のDNAを明日へ、未来へ

創業者 川崎正蔵

初代社長 松方幸次郎

1906年 わが国初の潜水艇を完成

1911年 国産化第1号
蒸気機関車完成

1922年 当社初の航空機
(乙式一型偵察機)完成

1926年 東京市の永代橋を製作

1933年「六甲号」乗用車の
製作販売を開始

1934年 中国に「あじあ号」用
パシナ形蒸気機関車を納入

1941年「飛燕」戦闘機の
生産を開始

1878年　川崎正蔵が西洋型船の建造を目的として「川崎築地造船所」(東京)を開設(当社の創業)。1886年には、事業規模を拡大して「川崎造船所」(神戸)を開設しました。

1896年　(株)川崎造船所を創立。松方幸次郎が初代社長に就任しました。

1906年　兵庫工場を開設。機関車、貨客車、さらに橋桁の製作を開始しました。この年、造船所では船の主機関として蒸気タービンの製造も開始しています。

1918年　兵庫工場に飛行機科を設置し、航空機の製造に着手。その後、新たに航空機工場を開設、日本初の全金属製飛行機を完成させ、今日の礎を築くことになります。

1919年　船舶部門を分離して、川崎汽船(株)を設立。

1928年　兵庫工場を分離して、川崎車輛(株)を設立。

1937年　飛行機部門を分離して、川崎航空機工業(株)を設立。

1939年　川崎重工業(株)と社名変更。

1950年　製鉄部門を分離して、川崎製鐵(株)を設立。
事業の拡大とともに、車両、航空機、製鉄部門が相次いで独立し、それぞれの分野で確固たる地歩を築きました。

1966年　ボイラ、粉砕機、運搬機械などのメーカーであった横山工業(株)を合併。

1969年　川崎重工・川崎車輛・川崎航空機の3社が再び合併。陸・海・空に事業を展開する総合システムエンジニアリング企業としての基盤を固めました。

1972年　汽車製造(株)を合併。鉄道車両分野でわが国トップメーカーの座を確保するとともに、都市ごみ焼却プラントの分野にも事業を広げました。

1969年 国産初の産業用ロボット
「川崎−ユニメート2000」誕生

1972年 モーターサイクル
「Z1」を発売

1977年 ガスタービン発電設備
PU200を初納入

1978年 セメントプラント
(アルジェリア)

1979年 BK117型ヘリコプター
初飛行

1981年 わが国初のLNG運搬船を引渡し

1991年 英仏海峡海底鉄道
トンネル掘削機、掘削に成功

1998年 明石海峡大橋開通

1975年　わが国二輪車・四輪車業界のトップを切って、アメリカで二輪車の現地生産を開始。さらに、1986年からは鉄道車両もアメリカで現地生産を開始しました。

1989年　世界最長の吊橋(当時)、明石海峡大橋主塔工事を受注(1998年開通)。

1991年　英仏海峡海底鉄道トンネルの掘削で、2基のトンネル掘削機が予定より8ヵ月も早く同トンネルを貫通させました。

1996年　創立100周年。

2001年　社内カンパニー制と執行役員制を導入。

2002年　船舶部門を(株)川崎造船として、精機部門を(株)カワサキプレシジョンマシナリとして分社独立。

2003年　破砕機事業部門が(株)アーステクニカとして分社独立。((株)神戸製鋼所との統合)

2005年　プラント部門をカワサキプラントシステムズ(株)として分社独立。

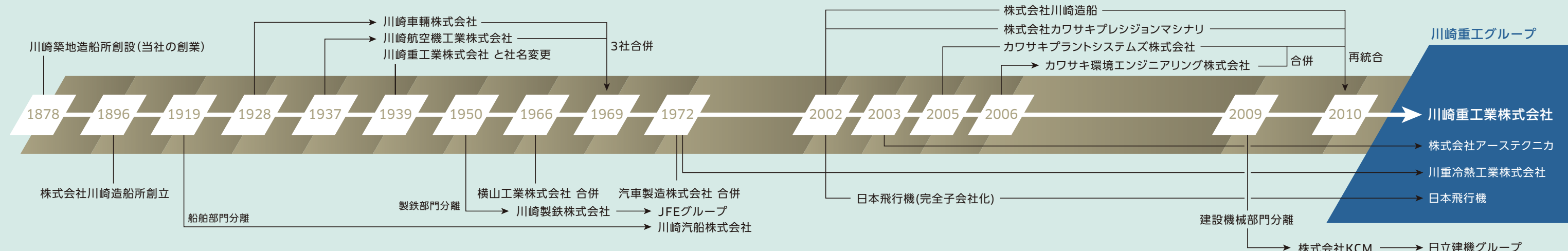
2006年　環境部門をカワサキ環境エンジニアリング(株)として分社独立。

2007年　カワサキプラントシステムズ(株)とカワサキ環境エンジニアリング(株)が合併。

2010年　川崎重工、川崎造船、カワサキプレシジョンマシナリ、カワサキプラントシステムズの4社が再統合。

2020年　ディビジョン制を導入。

川崎重工はいま、多彩な技術を保有する企業集団として
絶え間ない歩みを続けています。

CO_2フリー水素サプライチェーンの実現へ

水素社会の未来を切り拓く
カワサキのテクノロジー

水素は、エネルギーとして利用する際にCO_2を排出せず、
しかもさまざまな物質から生み出すことができ、自動車や発電の燃料として活用すれば、
地球温暖化と資源枯渇という二つの環境問題を同時にクリアできる究極のクリーンエネルギーです。
川崎重工は、蓄積された技術力・総合力で、水素を「つくる」「はこぶ」「ためる」「つかう」といった
"水素サプライチェーン"に必要な主要機器をシームレスに提供できる強みを活かしながら、
新たなインフラ技術の開発・製品化を進めています。
私たちは、水素を中心とした豊かな暮らしの実現に向けて、これからも取り組んでいきます。

川崎重工、岩谷産業、電源開発、シェルジャパンの4社は、技術研究組合CO_2フリー水素サプライチェーン推進機構〔略称HySTRA（ハイストラ）〕を2016年2月に設立し、NEDOの助成事業『未利用褐炭由来水素大規模海上輸送サプライチェーン構築実証事業』に取り組んでおり、2018年10月に丸紅、2019年8月にENEOS、12月に川崎汽船が加わり、2030年以降の商用化検討も開始しました。また、2018年4月には豪州側プロジェクトに豪州政府の支援も決定しました。
2020年度に褐炭ガス化水素製造および液化水素運搬船とその荷役基地建設・建造が完了し、各種評価試験を行いながら、日豪パイロット水素チェーン航行準備を進めています。

水素サプライチェーン

水素液化システム

水素をつくる

−253℃の極低温を実現

水素をエネルギーとして本格的に利用するためには、大量の水素が不可欠です。そこで川崎重工は、産業用では初となる純国産独自技術の水素液化システムを開発・上市*しました。未利用資源の褐炭からつくり出した水素を−253℃の極低温で液化し、体積を縮小することで大量輸送を可能にします。

＊：2020年6月10日 当社プレスリリース「国内メーカー製初の「水素液化機」を販売開始」

液化水素運搬船「すいそ ふろんてぃあ」

水素をはこぶ

1/800に体積を縮小して輸送

海外の未利用資源から製造された大量の水素を−253℃まで冷却して液化、体積を1/800に縮小して、安全に効率よく日本へ運ぶために、世界初の液化水素運搬船の開発に取り組んでいます*。2020年度に実証船の建造を完了し、さらなる大型化にも取り組んでいます。

＊：NEDO助成事業「未利用褐炭由来水素大規模海上輸送サプライチェーン構築実証事業」

液化水素貯蔵タンク

水素をためる

2,500㎥の液化水素貯蔵設備

水素を日本国内で利用していくには、液化水素の貯蔵タンクや輸送用のコンテナが必要です。川崎重工には、ロケット燃料用として長期にわたる液化水素の運用実績があり、現在は真空断熱構造を持つ、日本最大の2,500㎥級液化水素貯蔵タンクを開発し、神戸市沖合の神戸空港島北東部に設置しました。2020年より技術実証を進めています*。

＊：NEDO助成事業「未利用褐炭由来水素大規模海上輸送サプライチェーン構築実証事業」

水素ガスタービン

水素をつかう

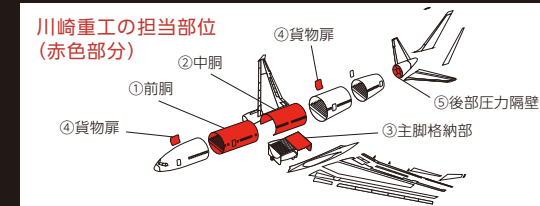
100%水素による発電

環境負荷を低減するガスタービン発電の実用化を目指して、独自の燃焼方式で天然ガス/水素60%の混焼を実現しました。さらに、燃焼速度が速いという水素の特性に適合する、水素100%から天然ガス100%まで混焼比率を連続的かつ自由に変更できる燃焼技術の開発に成功し、神戸市ポートアイランドにおいて更なる技術実証を進めています*。

＊：NEDO助成事業「水素コージェネレーションシステム活用スマートコミュニティ技術開発事業」において、2018年4月に市街地における純水素燃料による熱電併給を世界で初めて達成。

航空宇宙システム

Aerospace Systems

航空宇宙システム

ボーイング777-8/-9の国際共同開発・生産に参画

川崎重工は、ボーイング社の新型旅客機である「777-8/-9」の国際共同開発・生産にパートナー企業として参画し、前部胴体パネル・中部胴体パネル・主脚格納部・後部圧力隔壁などを担当しています。
製造においては、3種類の当社製ロボットを組立ラインに投入することにより、大幅な自動化と生産性の向上を実現しています。

最先端のテクノロジーを集約し
空と宇宙のさらなる高みを目指す。

ボーイング777-9
(提供:Boeing)

T-4「ブルーインパルス」
(提供:航空自衛隊)

ボーイング787ドリームライナー
(提供:Boeing)

P-1固定翼哨戒機

C-2輸送機

BK117D-2型ヘリコプター

CH-47J/JA型ヘリコプター

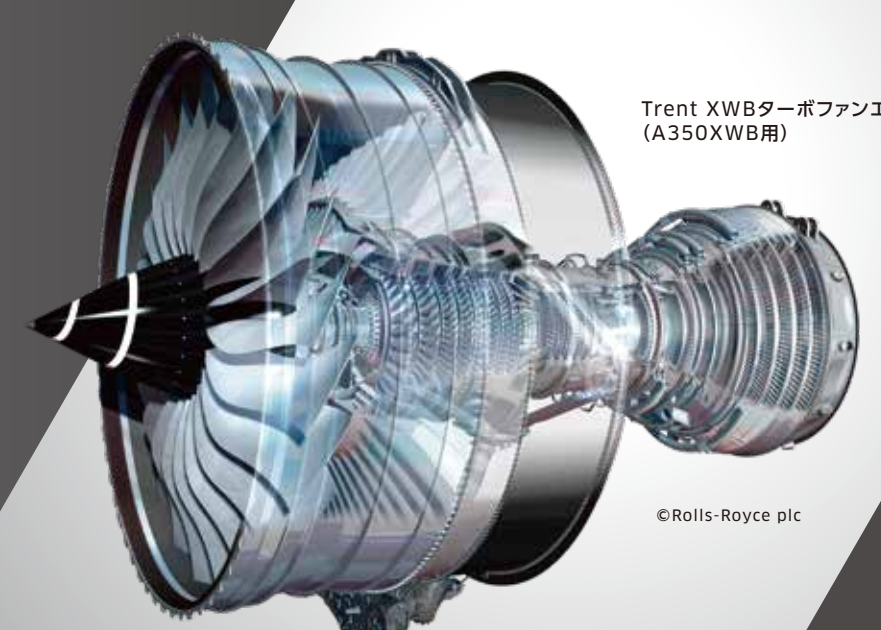
川崎重工は、1918年に航空機製造事業を発足して以来、日本を代表する機体メーカー・航空エンジンメーカーとして、幅広い事業を展開しています。
航空宇宙事業では、P-1固定翼哨戒機およびC-2輸送機など、防衛省向けの航空機の開発・製造を行っているほか、ボーイング787など民間航空機の国際開発・生産プロジェクトにも参画しています。
また、ベストセラー機・BK117をはじめとしたヘリコプター、H-IIA、H-IIB用ロケットフェアリングなどの宇宙機器も手がけています。
エンジン事業では、1954年にジェットエンジンのオーバーホール事業を開始して以降、ヘリコプター用エンジンの国産化、民間旅客機用ジェットエンジンの国際共同開発への参画などにより、確かな技術力でエネルギー効率向上や環境負荷低減に寄与しています。

H3ロケット衛星フェアリング
(提供:JAXA)

RTM322ターボシャフトエンジン
(MCH/CH-101ヘリコプター用)

国際宇宙ステーション「きぼう」
(提供:JAXA/NASA)

PW1100G-JMターボファンエンジン
(A320neo用) 出典:JAEC

T55-K-712Aターボシャフトエンジン
(CH-47JAヘリコプター用)

Trent XWBターボファンエンジン
(A350XWB用)

©Rolls-Royce plc

最高水準の技術で、お客様のニーズに応える
鉄道システムメーカーへ。

Rolling Stock

JR東日本 E5系電車

車両（川崎車両株式会社）

川崎重工グループは、1906年に鉄道車両製造を開始して以来、常に技術の先端を歩みながらその発展と近代化の一翼を日本のトップメーカーとして担ってきました。南海鉄道向け木製電動客車から始まった事業は、電車・貨車・機関車・ディーゼル機関車など数多くの車両や各種鉄道システムに拡大し、115年の歴史とともに蓄積された優れた技術と高い生産性を備えた2つの国内生産拠点と、北米の2つの生産拠点からさまざまな鉄道車両を世界各地へ送り出しています。これからも最高水準の技術で、お客様のニーズに応える鉄道車両システムメーカーとして社会に貢献していきます。

ニューヨーク市交通局 R211電車／米国

メトロノース鉄道 M-8電車／米国

JR東海・JR西日本 N700系電車

小田急電鉄 5000形電車

神戸市交通局 6000形電車

台湾高速鉄道 700T型電車／台湾

シンガポール陸運庁 T251電車

JR四国 2700系気動車

JR貨物 DD200形式ディーゼル機関車

神戸新交通 3000形電車

卓越したものづくりとエンジニアリングで多様なニーズに応える。

川崎重工は、「エネルギー」「環境・リサイクル」「産業インフラ」「舶用推進システム」の4分野において、開発・設計から製造まで川崎重工グループの持つ技術力を発揮し、お客様のニーズに応じたエンジニアリングと最高品質のものづくりで世界の人々の豊かな生活に貢献しています。

発電用ガスエンジン

産業用ガスタービン

GTG (Gas To Gasoline) プラント

Energy System & Plant Engineering

エネルギー・ソリューション

エネルギー分野

産業用ガスタービン（コージェネレーション用、非常用発電設備用）

アスファルトピッチ焚きボイラー・タービン発電設備（U-KACCボイラー）

発電用ガスエンジン

蒸気タービン

産業インフラ分野

FLNG（洋上液化・貯蔵・出荷設備）用ボイラー

LNG貯槽（左）、LPG貯槽（右）

天然ガス圧縮設備

フェロニッケルプラント

石炭搬送用スタッカリクレーマ

環境・リサイクル分野

ごみ処理発電施設

ごみ焼却・バイオガス化複合施設

単段ターボブロワ「MAGターボ」

舶用推進システム分野

旋回式スラスタ「レックスペラ」

サイドスラスタ

複合低環境負荷システム「K-ECOS」搭載ディーゼル主機関

舶用ガスエンジン

高付加価値船で海上輸送をリードし
これからも世界の海に新しい船出を。

LPG運搬船

液化水素運搬船「すいそ ふろんてぃあ」

Ship & Offshore Structure

船舶海洋

川崎重工の歴史は、1878年の川崎築地造船所に始まり、それ以来、「日本初」と形容される数々の船舶を建造してきました。
性能・信頼性が高く評価されているLNG船やLPG船をはじめ、コンテナ船、バルクキャリア、大型タンカー（VLCC）、自動車専用船（PCC）などの商船ならびに潜水艦や海洋調査船、巡視船などの官公庁船の建造を手がけるとともに、これまでの技術蓄積の上に立った液化水素運搬船やガス燃料船等ガス関連船、自律型無人潜水機（AUV）、運航支援システム等の新たな分野にも取り組んでいます。
川崎重工は、これからも最新技術で、常に“船舶・海洋開発の新時代”を切り拓きます。

大型液化水素運搬船

LNG運搬船

大型タンカー（VLCC）

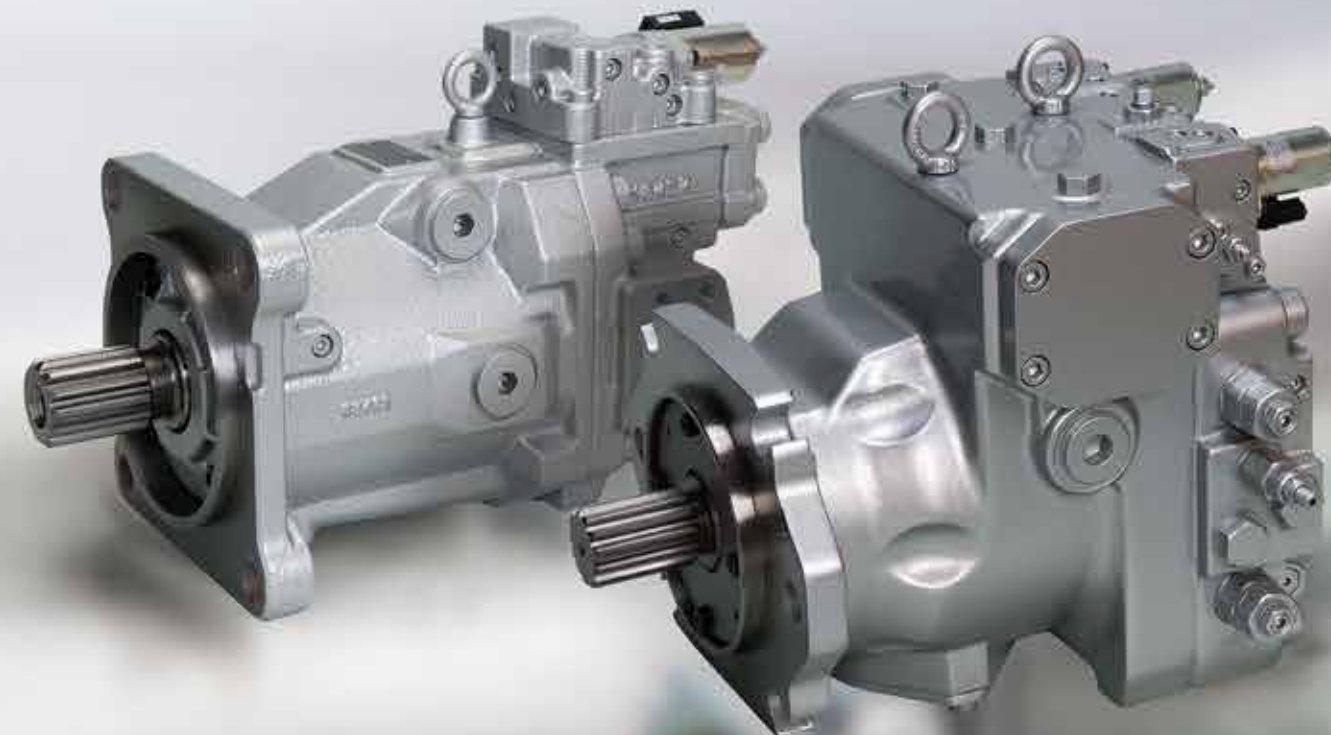
コンテナ船

自律型無人潜水機 (AUV: Autonomous Underwater Vehicle)

潜水艦

超高速旅客船（川崎ジェットフォイル）

自動車運搬船

油圧システムの総合ソリューションを提供し
世界のモノづくりを支え続ける。

油圧モータ「M7V」（左）／油圧ポンプ「K8V」（右）

Precision Machinery

精密機械

川崎重工は、油圧業界随一の規模と生産設備を備え、世界トップシェアを誇る油圧ショベル用ポンプや旋回モータ、コントロールバルブ等各種バルブをはじめとした油圧機器および、油圧と制御の優れた技術を活かした製鉄・鍛圧をはじめとする各種産業機械用システム・油圧装置、舵取機・甲板機械などの船用油圧装置を中心に世界のユーザーへ供給しています。

現在、西神戸工場をマザーファクトリーに、日本、イギリス、アメリカ、中国、韓国、インドの世界6極体制を確立し、急速なグローバル化に対する機動力のある対応を実現、Kawasakiブランドの油圧機器・システムを世界に広げています。常に新しい技術と製品の開発に取り組み、品質向上と製品の安定供給で、世界の産業を支え続けます。

電動油圧舵取機

ウインドラス

エコサーボ

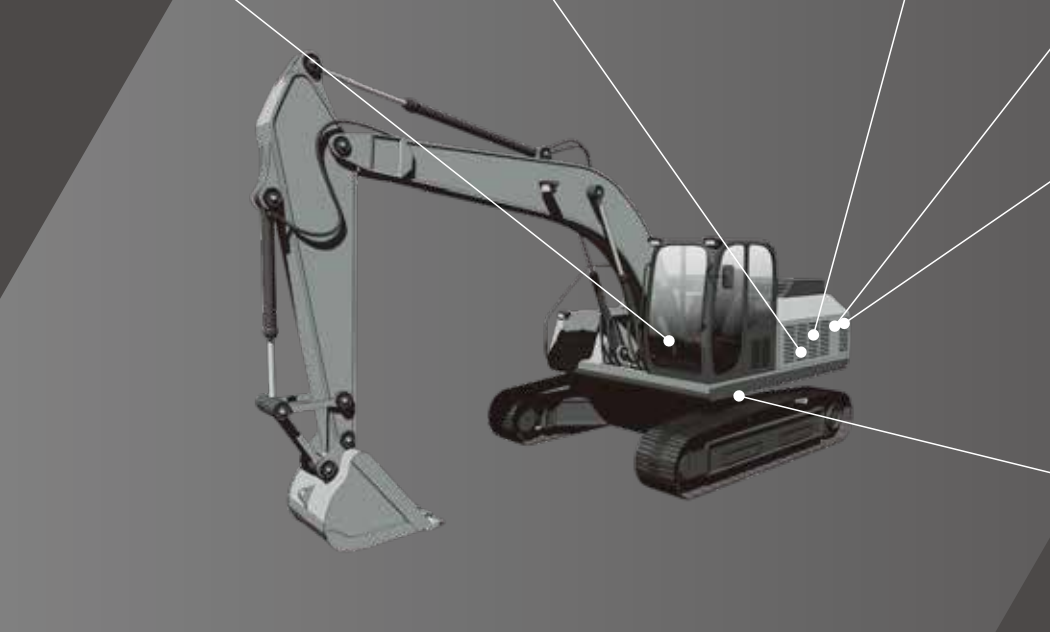
斜板形アキシャルピストンポンプ
K7VGシリーズ

高圧水素減圧弁

パイロットバルブ
PVシリーズ

マルチコントロールバルブ
KMXシリーズ

ロードセンシング用コントロールバルブ
KLSVシリーズ

ロードセンシング用斜板形アキシャルピストンポンプ
K3VLSシリーズ

斜板形アキシャルピストンポンプ
K7Vシリーズ

減速機付斜板形アキシャルピストンモータ
M5X-RGシリーズ

ロボット

モノづくりから医療まで、
カワサキロボットは人と社会の
新しい未来をつくります。

双腕スカラロボット「duAro」シリーズ

「duAro」は、人の両腕の動きをそのまま再現できる当社初の双腕ロボットで、人が行う作業を人一人分のスペースで簡単に置き換えることができます。
使い易さを徹底的に追求し、教示を簡単にして実用性を高めたほか、オプションでアーム本体とコントローラを分離することも可能なため、現場のレイアウトにより適した形で導入できます。さらに、衝突検知機能などの安全機能を装備しており、作業者のすぐ横に設置しても安心して共存作業をさせることができます。

スポット溶接用ロボット BXシリーズ

Robot

ロボット

世界一のロボット生産国である日本において、最初に産業用ロボットの生産と販売を始めたのが川崎重工です。1969年以来、川崎重工は、リーディングメーカーとして、自動車業界や電機・電子業界をはじめとするさまざまな業界向けに、スポット溶接、アーク溶接、組立・ハンドリング、塗装、パレタイズなど多種多様なロボットを供給し、国内外の産業発展に貢献してきました。
産業用ロボットのパイオニアとして積み重ねてきた実績とシステムエンジニアリング技術を駆使して、人共存・協調ロボットや医療用ロボットなどの新分野を拡大し、人とロボットの未来社会を創造していきます。

小・中型汎用ロボット RSシリーズ

スポット溶接用ロボット BXシリーズ

超大型汎用ロボット Mシリーズ

アーク溶接ロボット BAシリーズ

防爆塗装用ロボット Kシリーズ

パレタイズロボット CPシリーズ

ピッキングロボット YFシリーズ

ウェハ搬送ロボット

医薬ロボット MSシリーズ

モーターサイクル
&エンジン

Kawasaki
Let the good times roll

もっと楽しもう! 川崎重工グループのシナジーによる高い技術力をもって、圧倒的なパフォーマンスを体感できる製品を創造し、お客様がカワサキプロダクツとともに過ごすひとときに究極のエキサイトメントを提供し続け、お客様に心豊かな暮らしをお届けします。

Motorcycle & Engine

モーターサイクル&エンジン(カワサキモータース株式　会社)

レース活動

スーパーバイク世界選手権6連覇

2019鈴鹿8時間耐久ロードレース 26年ぶり2度目の優勝

2020 AMA スーパークロス選手権 シリーズチャンピオン獲得

スポーツ施設

オートポリスサーキット

健全なモータースポーツの普及のため、モータースポーツファンが高度なライディング技術を観て楽しむ、あるいは自らスポーツ走行を体験する機会を提供しています。地域との共生を図りながら、国内に国際規格サーキット「オートポリス」(大分県)等を所有しており、二輪、四輪のレースイベントや走行会を開催しています。また、自社製品のテストコースとして、二輪車の研究開発の場としても使用しています。

Z H2 SE

KLR650 ADVENTURE
※海外向けモデル

MEGURO K3

JET SKI STX 160LX

MULE PRO-FXT
※海外向けモデル

TERYX KRX 1000 eS
※海外向けモデル

汎用ガソリンエンジン

最上位機種のFX1000V EFI

川崎重工が汎用ガソリンエンジンを通してお客様に提供する「信頼」は、60年以上の歴史に裏打ちされた確かな設計と高いテスト基準、お客様の声を第一に考え製品開発に反映させる姿勢とそれによって作り出される高品質なエンジンによって築き上げられました。
世界中で様々な作業機に搭載される当社の汎用ガソリンエンジンは、なかでも米国で芝刈りを生業にする作業者から絶大な信頼を得ており、業界トップシェアを誇っています。

プロ向けの乗用芝刈機に搭載

厳しい基準をクリアして生産される

総合技術力で未来を拓く価値を創り出します。

川崎重工グループの将来にわたる企業価値向上に向けて、事業部門のコア･コンピタンスのさらなる強化、「技術のシナジー」の活用も進めながら、競争力のある「新製品･新事業」の開発に、事業部門と本社技術開発本部が一体となって取り組んでいます。
これまで市場に提供してきた当社の優れた製品群について、それらの次期製品の競争力強化に貢献する技術開発を推進しています。また近年、市場環境･社会課題･技術革新など急速な変化が生じており、現有技術の延長線上の開発だけでは十分な競争力を維持できない可能性があります。このため現有コア･コンピタンスの一層の強化に加えて、将来の新たな価値観や社会課題を予測し、それらに対応する新たな技術開発(非連続なイノベーション)にも積極的に挑んでいます。

「新製品・新事業」に向けた技術開発

地球環境の保全やエネルギーの安定供給に対する社会的な要求の高まりと、資源国などの変化の激しい市場やそれにともなう製品生産環境の急激な変化――。このようなダイナミックな動きに応えるため、川崎重工グループでは「新製品･新事業」に向けた研究開発を加速させています。
大幅な需要増が見込まれる民間航空機およびそのエンジンなどの「航空宇宙システム」製品、地域の多種多様なエネルギーニーズに応えるガスタービン･ガスエンジンをはじめとする「エネルギー･環境プラント」製品、資源国などにおけるインフラ整備や生産設備投資あるいは省人化に対応した油圧機器や産業用ロボットといった「精密機械･ロボット」製品、さらに陸･海のフィールドで人や物の輸送を担うモーターサイクル･鉄道車両･船舶などの「交通･輸送」製品などの広範な事業分野において、さまざまな市場ニーズに適した「新製品･新事業」を実現するために必要となる技術を、事業部門と本社技術開発本部が一体となって開発しています。
また、製品開発における課題解決の前倒しや設計段階での製品への付加価値のつくりこみ、あるいは先進的な生産･製造技術を設計段階から積極的に適用することで商品価値を向上するなどの、事業部門における製品開発のプロセスイノベーションについても、事業部門の取り組みを強力に支援しています。

将来の「新製品・新事業」の創出に向けた技術開発

川崎重工グループでは、将来の社会を思い描いて新たなニーズを予測した上で、次世代を支える「新製品･新事業」の創出を目指したビジョン･オリエンテッドな技術開発を行っています。
このため、新たな顧客価値創造の源となる「基盤技術」の育成･強化を進めるとともに、ICT/IoTやAIなどの最新のデジタル技術を活用し、製品メンテナンスなどのサービス事業の収益力強化および創出、工場間やサプライチェーン全体を通じた生産設備のネットワーク化によるものづくり革新、バリューチェーン全体における業務プロセスの高度化による新ビジネスモデルの創出などについても、事業部門と本社技術開発本部が協力して取り組んでいます。
また、国のエネルギー基本計画に盛り込まれている「水素を本格的に利活用する水素社会」の実現を見据え、水素の「製造」から「輸送･貯蔵」、「利用」までのサプライチェーンの早期構築に向けた技術開発を、国内外の政府機関や関連企業各社などと連携して取り組んでいます(P7-8「Kawasaki Hydrogen Road」をご覧ください)。

国内生産拠点
営業拠点

充実したネットワークで全国のお客様からの需要に応えています。

川崎重工は、東京と神戸の2本社体制をとり、技術開発拠点は明石工場（兵庫県明石市）内にかまえ、陸・海・空にわたる川崎重工グループの製品群は、関西、中部など各地に位置した工場で生み出されています。
また営業拠点は、北海道から沖縄まで全国に配置しています。

■ 生産拠点
▲ 関連企業生産拠点

● 北海道支社　● 東北支社　● 中部支社　● 関西支社　● 中国支社　● 九州支社　● 沖縄支社

6 岐阜工場（岐阜県各務原市）
●敷地面積：726,000m²
●生産品目：航空機、宇宙機器

7 名古屋第一工場（愛知県弥富市）
●敷地面積：222,000m²
●生産品目：航空機

8 名古屋第二工場（愛知県飛島村）
●敷地面積：18,000m²
●生産品目：航空機

9 川重冷熱工業（株） 滋賀工場（滋賀県草津市）
二重効用ナチュラルチラー（Efficio NZ型）
●敷地面積：130,000m²
●生産品目：空調機（ナチュラルチラー）、汎用ボイラ

1 （株）NICHIJO 曙工場・稲穂工場（札幌市）
ロータリ除雪車 HTR408
●敷地面積：50,000m²
●生産品目：除雪機械、重量物運搬車、その他

2 東京本社
川崎車両（株）東京本社
カワサキモータース（株）東京事務所

3 （株）アーステクニカ 八千代工場（千葉県八千代市）
ジャイレトリクラッシャ
●敷地面積：140,000m²
●生産品目：破砕機、環境関連機器、粉砕機、耐摩耗鋳鋼製品

4 日本飛行機（株） 横浜工場（横浜市）
B747アウトボードフラップ
●敷地面積：151,600m²
●生産品目：航空機、宇宙機器

5 日本飛行機（株） 厚木工場（厚木市）
●敷地面積：67,900m²
●機　　能：航空機整備、改修

19 坂出工場（香川県坂出市）
●敷地面積：911,000m²
●生産品目：船舶・海洋機器

10 神戸本社

11 神戸工場（神戸市）
●敷地面積：360,000m²
●生産品目：船舶、海洋機器、機械

12 川崎車両（株）神戸本社（神戸市）
●敷地面積：220,400m²
●生産品目：鉄道車両

13 西神戸工場（神戸市）
●敷地面積：228,000m²
●生産品目：油圧機器・装置、機電製品、クリーンロボット

14 西神工場（神戸市）
●敷地面積：100,000m²
●生産品目：航空機用エンジン、ガスタービン部品

15 明石工場（兵庫県明石市）
カワサキモータース（株）本社・本社工場
●敷地面積：510,000m²
●生産品目：航空機用エンジン、二輪車、ロボット、ガスタービン（艦艇用・産業用）

技術開発本部（明石工場内）

16 播磨工場（兵庫県播磨町）
川崎車両（株）播磨工場
●敷地面積：445,000m²
●生産品目：エネルギー・環境設備、鉄道車両、舶用機械、その他

17 カワサキモータース（株）加古川工場（兵庫県加古川市）
●敷地面積：51,000m²
●生産品目：二輪車用エンジン部品、その他

油圧プレス

18 川崎油工（株）（兵庫県明石市）
●敷地面積：36,400m²
●生産品目：油圧プレス・船用舵取機・その他油圧機器・装置

世界市場に多種多様な製品を送り出す、グローバルネットワーク。

川崎重工グループでは、モーターサイクルをはじめ、鉄道車両、油圧機器、汎用ガソリンエンジン、船舶、舶用機械の各分野で本格的な海外生産を行っており、その充実したネットワークを通じて製品を世界各地に送り出しています。
2002年、鉄道車両一貫製造工場を米国ネブラスカ州リンカーンに、さらに近年では舶用機械、油圧機械などの生産拠点を中国・インドに建設しました。
1975年、わが国の二輪車・四輪車業界のトップを切って、アメリカでの現地生産を始めたKawasakiモーターサイクル――そのチャレンジ精神とノウハウは、他分野の海外展開にも大いに活かされています。

1 Kawasaki Precision Machinery (U.K.) Ltd.
(イギリス・プリマス)
●敷地面積：68,000m²
●生産品目：油圧ポンプ・モータ、その他油圧機器

2 Wipro Kawasaki Precision Machinery Pvt. Ltd.
(インド・バンガロール)
●敷地面積：20,843m²
●生産品目：油圧ポンプ・モータ

3 India Kawasaki Motors Pvt. Ltd.
(インド・マハラシュトラ)
●敷地面積：21,066m²
●生産品目：モーターサイクル

4 Kawasaki Motors Enterprise (Thailand) Co., Ltd.
(タイ・ラヨン)
●敷地面積：150,000m²
●生産品目：モーターサイクル

5 PT. Kawasaki Motor Indonesia
(インドネシア・ブカシ)
●敷地面積：20,000m²
●生産品目：モーターサイクル

6 Kawasaki Motors (Phils.) Corporation
(フィリピン・マニラ)
●敷地面積：24,000m²
●生産品目：モーターサイクル

7 川崎(重慶)機器人工程有限公司
(中国・重慶)
●敷地面積：20,000m²
●生産品目：双腕スカラロボット

8 武漢川崎船用機械有限公司
(中国・武漢)
●敷地面積：20,000m²
●生産品目：舶用機械

9 安徽海螺川崎節能設備製造有限公司
(中国・蕪湖)
●敷地面積：140,000m²
●生産品目：セメント排熱発電設備用ボイラ、CKミル、都市ごみ焼却設備その他省エネ・環境対策設備の製造、販売

10 川崎精密機械(蘇州)有限公司
(中国・蘇州)
●敷地面積：91,773m²
●生産品目：油圧ポンプ・モータ・バルブ、その他油圧装置、産業用ロボット

11 安徽海螺川崎装備製造有限公司
(中国・蕪湖)
●敷地面積：327,000m²
●生産品目：セメント設備の設計および製作・販売、メンテナンス、アフターサービス、予備品の提供

12 川崎春暉精密機械(浙江)有限公司
(中国・浙江)
●敷地面積：20,000m²
●生産品目：油圧ポンプ・モータ

13 常州川崎光陽発動機有限公司
(中国・常州)
●敷地面積：12,281m²
●生産品目：汎用ガソリンエンジン

14 南通中遠海運川崎船舶工程有限公司
(中国・南通)
●敷地面積：930,000m²
●生産品目：船舶

15 大連中遠海運川崎船舶工程有限公司
(中国・大連)
●敷地面積：1,910,000m²
●生産品目：船舶

16 Flutek, Ltd.
(韓国・チャンオン、ウーリョン)
●敷地面積：54,921m²
●生産品目：油圧ポンプ・モータ、舶用舵取機、舶用甲板機、その他油圧機器

17 Kawasaki Motors Manufacturing Corp., U.S.A. Lincoln Plant
(アメリカ・ネブラスカ州リンカーン)
●敷地面積：1,356,000m²
●生産品目：ATV(四輪バギー車)、多用途四輪車、パーソナルウォータークラフト「ジェットスキー」、鉄道車両、航空機コンポーネント

18 Kawasaki Motors Manufacturing Corp., U.S.A. Maryville Plant
(アメリカ・ミズーリ州メアリービル)
●敷地面積：460,000m²
●生産品目：汎用ガソリンエンジン

19 Kawasaki Precision Machinery (USA), Inc.
(アメリカ・ミシガン州グランド・ラピッズ)
●敷地面積：6,600m²
●生産品目：油圧ポンプ

20 Kawasaki Rail Car, Inc.
(アメリカ・ニューヨーク州ヨンカース)
●敷地面積：32,000m²
●生産品目：鉄道車両

21 Kawasaki Motores do Brasil Ltda.
(ブラジル・マナウス)
●敷地面積：13,000m²
●生産品目：モーターサイクル

社会と未来につながる貢献の輪を広げます。

川崎重工グループは、グループミッション「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する"Global Kawasaki"」に基づき、事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指しています。グローバルな社会課題を積極的に認識し、グループのシナジーとイノベーションにより、国連が提唱するSDGs(Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」)にも貢献していきます。

また、ステークホルダーからの期待に応え、社会から信頼されつづける企業であるために、CSR活動を推進しています。

社会貢献活動については、グループの強みと従業員一人ひとりのちからを活かしながら、地域社会の存続・発展への寄与、未来のテクノロジーを担う次世代の育成、および環境保全への貢献に重点を置いて、さまざまな活動を展開しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

さまざまな分野で、社会貢献を続けていきます。

実験工作教室による次世代育成支援活動

川崎重工では、子どもたちの科学やものづくりへの関心を喚起するため、自社製品を基にした実験工作教室を各地で実施しています。

実験工作教室では、従業員がコーチ役となり、「学ぶ」「つくる」「楽しむ」「工夫する」をキーワードに、子どもたちが製品に関連する理科の知識を楽しみながら学べるよう工夫を凝らしています。子どもたちに「技術の素晴らしさ」と「ものづくりの大切さ」を伝えることで、未来のテクノロジーを担う次世代の育成につなげていきたいと考えています。

Image © The Metropolitan Museum of Art

米国の教育文化施設への支援活動

米国の川崎重工グループでは、ニューヨークのメトロポリタン美術館に1993年から寄付をしており、その寄付金は美術品の修復などに使われています。

また、Kawasaki Motors Manufacturing Corp., U.S.A.が拠点をおくネブラスカ州でも当社グループは、地元のネブラスカ大学に、日本の図書を集めた「川崎文庫」の運営資金や国際交流センター建設などに寄付しています。

カワサキワールド

カワサキワールドは、神戸にある川崎重工グループの企業ミュージアムです。代表的な製品を「見て」「触れて」いただくとともに、楽しく学びかつ遊びながら「技術のすばらしさ」と「ものづくりの大切さ」を実感していただくことを目指しています。

Kawasaki Robostage

Kawasaki Robostageは、東京・お台場にあるロボットのショールームです。川崎重工が持つロボット分野の最先端の技術とノウハウを見て触れて体験してください。「人とロボットの共存・協調の実現」をコンセプトとした、新製品のロボットをいち早く見ることのできる空間です。

「カワる、サキへ。」

「私たちはカワる、そのサキにむかって挑戦する」という想いと「社会がカワっていく、その一歩サキへ」という意志を込めて今後も社会的価値を提供していきます。

ANSWERS

社会課題と向き合う川崎重工グループの技術や取り組みを、わかりやすく紹介するWEBメディアです。

Hydrogen Road

水素エネルギーがもたらす新しい未来を、世界中の人々へ。Kawasakiグループの総合力を結集した取り組みは、すでにはじまっています。

facebook

オフィシャルFacebookページとして、ニュースやイベントの紹介など、川崎重工グループにまつわる様々なトピックを発信していきます。

Corporate Data

創業	1878年(明治11年)
創立	1896年(明治29年)
資本金	1,044億円(2021年3月31日現在)
従業員数(連結)	36,691人(2021年3月31日現在)
連結売上高	14,884億円(2021年3月期)
連結子会社数	99社(2021年3月31日現在)

東京本社
〒105-8315
東京都港区海岸1丁目14番5号
Tel. 03-3435-2111
Fax.03-3436-3037

神戸本社
〒650-8680
兵庫県神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号(神戸クリスタルタワー)
Tel. 078-371-9530
Fax.078-371-9568